

ちゅうざん



「ちゅうざん病院」は沖縄市松本にあるリハビリテーション専門病院です

病院機能評価の更新審査を受けました！

病院機能評価特別委員会 委員長 千知岩 伸匡

去った令和4年9月15・16日の2日間、5回目となる病院機能評価の更新審査を受けました。一度の認定期間は5年であり、その期間が満了するたびに、県外から病院機能のエキスパートが来院され、その体制や質が評価されます。評価調査者（サーベイヤー）は、医師、看護師、事務担当者の3名で構成され、2日間、病院中を歩き回りチェックや助言をしてくれます。

当院は、20年前からこの評価を受けています。日常の診療を少しでも改善するために、多くの院内委員会が活動していますが、日々の業務におわれ、不十分な点も少なからずあります。そこで、更新審査を約1年後に控えた、令和3年8月から「病院の質点検会議」という名称で、週3回ひる休憩前の20～30分を使い、病院機能の一つひとつを丁寧に自己点検していきました。点検で明らかになった課題は、適当な委員会に振り分け、改善策を検討してもらいました。

その甲斐あって、当日は落ち着いて審査を受けることができました。その結果、おおむね良好な評価を受けることができ、安堵するとともに、専門家の目でしか見抜けない課題も明らかになり、身が引き締まる気持ちにもなりました。

病院の質改善にゴールはありません。時代の流れに合わせ、常に良質な医療を患者さんに提供していく姿勢が大切です。次は1年後に4回目の更新審査を控えている「高度専門機能・リハビリテーション（回復期）」があります。この審査は、今回の受審のさらに上の質を問うものとなっています。リハビリテーション専門病院の名に恥じぬよう、その水準を確実にクリアするように職員一丸となって病院の質を高めていきます。



写真①

サーベイヤーの総評を聞く様子



写真②

汚物処理室のチェックの様子



ドクターズ・リレーコラム

第4回 吉田 貞夫 医師

(ちゅうざん病院副院長・金城大学 客員教授)

「世界の筋肉量はオレが測る!？」

今回は、高齢者や慢性疾患をお持ちの方で、筋肉が減少し力がでない…、日常生活に困る…という支障をきたす『サルコペニア』について、『サルコペニアねえまきらんヨォ!』と題してお話させていただきました。

今回は、新たなお報告です。筋肉量(骨格筋量)を測定するためには、インボディという機器を用います。当院でも、管理栄養士さんたちが寸暇を惜しんで、一生懸命に測定してくれています。しかし、1日に測定できる人数は限られていますし、心臓ペースメーカーを留置した患者さまや、浮腫(むくみ)の強い患者さまでは測定が困難なこともあります。全国の病院や医療・介護施設では、まだまだ、この機器を常備していないところも多いのが現状です。

そこで、このたび、『血液検査データを用いて骨格筋量を測定し、サルコペニアや低栄養を判定するシステム』を発明し、特許を取得いたしました(特許第7113121号)。先日、県内各誌が取材してくださり、掲載されましたので、ご覧いただいた方もいらっしゃると思います。インボディなどで骨格筋量の測定が困難な場合、代わりにどのような測定を行うべきかは、国際的に大きな問題でした。さらに、この方法では、検診で地域単位での調査を行うこともできますし、離島や過疎地でも検査を行うことができます。この技術が、国内、あるいは、国際的に応用されるよう、研究開発、精度改善を進めていきたいと思っております。

<ドクタープロフィール>

吉田貞夫(よしだ さだお)

平成3年

筑波大学医学専門学群卒業

平成9年

筑波大学大学院医学研究科卒業

専門分野: 一般内科、臨床栄養学

日本臨床栄養学会臨床栄養学指導医 他



教えて管理栄養士さん

管理栄養士 白石 菜実

「家庭備蓄のすすめ」

近年、台風や地震など各地で大きな災害が発生しています。大きな災害が発生した場合、スーパーやコンビニでの食品の入手が困難となり、災害時の生活に備え、食品の備蓄(びちく)を家庭に取り入れることが大切です。

1.食品の備蓄の目安

災害発生からライフライン復旧や支援体制が整うまでに3日以上を要するといわれています。その間、自分や家族を守るために最低でも3日~1週間分の食品を備蓄する必要があります。

2.備蓄品の例

たんぱく質・ミネラル・ビタミン・食物繊維などバランスよく揃えましょう。

□飲料水(1日2L×人数分×3日分)

□主食: パックご飯、即席麺、缶詰パンなど

□主菜: 肉や魚の缶詰、レトルト食品など

□副菜: 野菜ジュース、乾物、即席スープなど

□その他: カセットコンロ、ガスボンベ、紙食器

下の写真は当院での1日分の備蓄食です。大きな災害が起こった時でも患者様に安全な食事を提供できるよう、栄養科では備蓄食を準備しています。最近では、大型スーパーマーケットなどの防災コーナーには様々な備蓄食品が陳列されています。皆さんも日常の買い物のついでに、備蓄食品もチェックしておきましょう。



朝食

- ・白粥
- ・豚汁



昼食

- ・白粥
- ・野菜カレー
- ・野菜ジュース



夕食

- ・白粥
- ・いわしの煮付
- ・にゅうめん



セラピスト・健康講座

言語聴覚士 久高 健汰

「難聴について」

みなさん、難聴は知っていますか。日本では1500万人以上の方が難聴患っているとのデータがあります。聴力は40代から低下が始まり、65～74歳では3人に1人、75歳以上の約半数が難聴悩んでいるそうです。難聴は思った以上に身近なものだと感じてもらえたでしょうか。

耳は外耳、中耳、内耳という部分に分かれます。外耳で音をキャッチし中耳で音を大きくします。そして内耳で音の鑑別を行います。外耳から中耳で問題がある場合に伝音性難聴、内耳で問題がある場合を感音性難聴と言われ、両方に問題がある場合を混合性難聴と言います。

難聴の原因は様々ですが、加齢や騒音化に長時間さらされること、病気などがあります。騒音化に長時間さらされて難聴になることを騒音性難聴と言います。工事現場などで作業している人のリスクが高いと言われてい

ます。そういった環境を避けるなどの予防がとても重要となります。

難聴になると入ってくる情報が不足します。車の音に気づかない、他人の声が聞こえにくいなど様々な問題を生じます。また、外出も嫌になり家にいることが増えうつ病や認知症のリスクとなります。そうならないためにも、早期発見、早期対応が必要です。補聴器を装用することで聞こえは補助できます。家族と話をしている耳が遠いなど感じたり、最近テレビの音が大きくなったなど感じたら早めに近くの耳鼻科や補聴器センターに相談してみると良いかもしれません。



部署の取り組み紹介

放射線技師 島袋 一樹

「放射線科について」

ちゅうざん病院放射線科は2名体制で、24時間オンコール体制で運営しています。

現在はコロナ禍で院内のフェーズとしても感染流行期にあたる為、放射線科の業務は、マスク、フェイスガード、手袋、ガウンを使用して患者様と接することになっています。

当院にある放射線機器としては、一般撮影、CT、外科用イメージ（Cアーム）があります。撮影内容としては入院に必要なレントゲン写真撮影や、入院患者様が発熱したり、転倒したりした時に撮影があります。

入院時にあたってレントゲン撮影をするのは、病院で管理するために必要で、患者様の病状を正確に知りたいからです。

他に嚥下造影という撮影があり、これは飲み込みの検査です。その時に使用する機器が外科用イメージで、検査時には医師、言語聴覚士、看護師、管理栄養士などいろいろな職種が集まり検査をしています。

検査内容など分からないことがあればいつでも放射線科までご連絡下さい。





情熱！エキスパート！

Q. 医療相談員を目指したきっかけは何ですか？

正直なところきっかけになるエピソードはないです。とりあえず入学できた大学で専攻を選ぶ機会があり「病院がかっこいいなあ〜」という感覚で選択し現在に至ります。逆に憧れや希望に満ちた感じではないので患者様、ご家族様が直面する現実問題に冷静に対応できているのかなと感じます。

Q. 患者様、ご家族様と関わる時に工夫していることはなんですか？

「話をしっかり聞く」ことです。某総理大臣のような返答ですいません。患者様、ご家族様が信じて話してくれていますので話をないがしろにせず聞いて、分からないことに関してはすぐに否定せずできる限り確認して返答していくように工夫しています。

Q. 仕事以外に興味があることを教えてください

最近は料理です。夕飯を調理する機会が増えたので夕飯の定番を混ぜつつ、毎日変化のある献立を目指して頑張っています。常備菜を常備することにハマりすぎて冷蔵庫の中がタッパーだらけになっています。

Q. あなたが思う、医療相談員にとって大切なことを教えてください

「理解力」と「解釈力」と「空気を読む力」です。相談員は患者様、ご家族様、専門職の良いことも悪いことも全て聞く仕事です。会話の中から要点を押さえて面談し、適切な支援をしていく上では「理解力」「解釈力」の重要性は高いと考えます。また医師面談や家族面談の場で進行役になることも多いのでその場の空気、雰囲気を感じ取りまとめることについても大切だと考えます。



<プロフィール>

名前:川満 恵悟
出身校: 沖縄国際大学
趣味: マラソン、料理



【病院紹介】

ちゅうざん病院は、昭和59年に沖縄ではじめてリハビリテーション病院として開設され、現在では回復期病床216床を有するリハビリテーション専門病院として、高齢者や、障がい者の人たちが、安心して生活できるような、医療・介護を提供しています。

スタッフのチームワークと熱意によって身体の障害、あるいは慢性疾患を持った患者様により良い心の通い合う医療をモットーに専門的なりハビリテーション、看護・介護を行い、患者様の社会復帰家庭復帰を目指しています。

<アクセス・問い合わせ>

〒904-2151 沖縄県沖縄市松本 6-2-1 TEL:(098)982-1346



【編集後記】

朝晩が冷え込むようになってきましたが、みなさま体調はいかがでしょうか。適度に食べ、適度に運動し、そして適度に休息を取りながら健康に過ごしましょう。

(末吉)

発行責任者: 末永 正機

編集長: 千知岩伸匡

編集員: 末吉勇樹、前田ひかり

知名正樹